

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

私は古河電工が目指している将来の姿を理解することが出来る。

古河電工の「統合報告書 2024」は大きく分けて4つのコンテンツに分けて書かれており、まず初めのコンテンツである「古河電工グループについて」において、古河電工が目指している将来の姿が書かれている。古河電工は2024年3月に「古河電工グループビジョン 2030」に基づいて「古河電工グループパーパス」を制定しており、グループ理念体系を見直している。統合報告書では、このグループパーパスが、ほとんどの項目の紹介の際に頻繁に掲載されており、『「つづく」をつくり、世界を明るくする。』という古河電工の将来目指す姿を理解しやすくなっている。古河電工は、今後、情報・エネルギー・モビリティ事業を発達させ、それぞれが融合した社会基盤を創ることを目指していくのだろう。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

私は古河電工の現在の競争優位性を理解することが出来る。

古河電工は、1884年の創業以降、メタル・ポリマー・高周波・フォトニクス of 4つのコア技術に優位性を持っている。現在の古河電工では、情報通信ソリューション・エネルギーインフラ・自動車部品、電池・電装エレクトロニクス材料・機能製品の5つの事業が主となっている。なかでも自動車部品・機能製品の2つの事業は好調で、AI・データセンタ市場では、放熱・冷却システムに関する事業が好調に推移していることもあり、今後も需要増大が見込まれている。以上の2つの事業では優位性があるといえるだろう。一方で、情報通信ソリューション事業においては、データセンタ市場の需要身長に対する対応の遅れが響き、同業他社に遅れを取っている。自動車・機能製品の2事業の優位性を伸ばしていく一方で、情報通信ソリューション事業の成長にも力を入れていくべきだと考える。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

私は、2で示した優位性に持続性があるかどうかを理解することが出来る。

2でも紹介したため、重複となってしまうが、AIデータセンタ市場では放熱・冷却システムに関する事業が好調に推移しており、今後も需要増大が見込まれる。また、回復が予想される半導体市場を見越し、半導体製造用テープの三重新工場は既に増産投資が行われており、自動車部品・機能製品の2つの事業の優位性は持続していくのではない

かと考える。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

私は、古河電工で自身の人的資本の価値向上を達成できると感じる。

古河電工では、ビジョン 2030 の達成に向け、それを支える人材の育成に力を入れようとしている。まず、採用の面においては、初任配属時の職種をある程度限定したコース別採用を導入することで、従業員個人のキャリアに対する希望を尊重し、新卒社員の企業とのミスマッチの削減に力を入れている。入社後の制度としては、2021 年度より社内副業制度を、2024 年度より社内公募制度を導入している。社内副業制度では、従業員自らが興味のあるプロジェクトに手を挙げ、業務の 20% を上限に、異なるプロジェクトに参加できるようになり、従業員の成長・やりがい・キャリア形成に寄与している。社内公募制度では、従業員が自ら手を挙げて移動することが出来るようになり、従業員の自律的なキャリア実現の一端を担っている。試験的に導入された 2023 年度には、10 名の方の異動が実現しており、今後加速すると思われる。

以上のように、古河電工では、従業員のキャリア実現の助けとなるような様々な制度を整え、人材育成につなげようとしている。自身が仮に古河電工に入社した際も、「社内副業制度を利用し、社内の様々なプロジェクトに関わることが出来、社内公募制度を利用し、気になった部署へも異動することが出来る」という、開かれた環境の中で自身のキャリア形成・能力の向上へとつなげることが出来るだろう。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

まず初めに良かった点として、「統合報告書内の様々な箇所にグループパーパスが書かれていた点」が挙げられる。頻繁にグループパーパスが目に入ったことで、古河電工が将来目指している姿がイメージしやすく、それぞれの項目がどのようにそのパーパスへとつながっているのかを理解することがしやすかった。

改善余地がある点として、「統合報告書の記載の順番」という点が考えられる。古河電工の統合報告書は、前半部に役員インタビューがあり、その後に各事業の説明という構成で作られていた。簡潔でもいいので、先に後半に記載されていた事業説明を掲載し、その後役員の方のインタビューとした方が、読み手も、事業内容に関してある程度理解を深めた上でインタビューを読むこととなるので、そちらの順番の方がよいのではないかと個人的には感じる。